

北海道の支庁別製材工場の實態について (2)

(石狩、渡島、空知、宗谷、網走、十勝各支庁の帯鋸製材機の分析)

片 岡 哲 蔵
小 林 正 平

前報で上川支庁管内の分については、製材工場の各種の項目について分析を試みたが、他支庁の分については、調査資料の不備等から主として、帯鋸製材機の施設年度使用鋸厚、及鋸車の大きさ等について分析を試みたものである。

I 調査工場数

支庁別	石狩	渡島	空知	宗谷	網走	十勝
工場数	74	126	133	24	195	95

II 各支庁別の分析事項

1. 石狩支庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第1表の通りである。これによると、昭和26年以降17%、昭和21~25年23%、昭和16~20年24%、昭和11~15年14%、昭和10年以前22%となっているから、使用年数20年以上のものが22%を占め、それ以外の戦前のもの38%、戦後のもの40%でその中昭和26年以降の新しいものが17%

石 狩 支 庁

第1表 帯鋸製材機の施設年度

種 類	年 代	昭26以降	昭21~25	昭16~20	昭11~15	昭10以前	計
自動送材車付帯鋸盤		10	12	14	5	10	51
手押	〃	1	2	1	—	—	4
自動ローラー送	〃	1	—	—	—	—	1
テーブル	〃	9	10	10	9	13	51
計		21	24	25	14	23	107
割 合 (%)		17.0	23.0	24.0	14.0	22.0	100

となっている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第2表の通りである。これによると18番10.7%、19番40.6%、20番32.7%、21番11.3%、22番2.8%、23番1.9%となっているから20~23番が48.7%を占めて薄鋸の使用率が多い。然し一番多いのは19番の40.6%である。

(3) 帯鋸製材機械の大きさ

帯鋸製材機械の大きさは第3表の通りである。これによると鋸車の直径50吋以上が15.4%、48吋が25%、44~46吋7.2%、41~42吋43%、40吋以下9%となつて、41~42吋が最も多く、次いで48吋が多くなっている。

この調査で各支庁とも施設年度のないものは調査数に算入されない。一台の製材機で二種類以上の鋸厚を記入されてあるものはそれを加算し、また鋸車直径の大きさの記入のないものは算入されていない。

第2表 帯鋸製材機の使用鋸厚

種 類 \ 鋸 厚	18	19	20	21	22	23	計
自動送材車付帯鋸盤	11	42	28	7	3	—	91
手押 // //	—	3	2	—	—	—	5
自動ローラー送 //	—	—	—	1	—	1	2
テーブル //	5	17	21	9	1	2	55
計	16	62	51	17	4	3	153
割 合 (%)	10.7	40.6	32.7	11.3	2.8	1.9	100

第3表 帯鋸製材機の大さ

種 類 \ 鋸車直径	60~62	54~55	52	50	48	45~45	44	41~42	40	35~38	30~34	計
自動送材車付帯鋸盤	8	1	4	7	29	4	5	13	1	—	—	72
手押 // //	—	—	—	—	—	—	—	4	—	1	—	5
自動ローラー送 //	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
テーブル //	—	—	—	—	2	4	2	38	1	4	3	54
計	8	1	4	7	31	8	7	55	2	5	3	131
割 合 (%)	6.2	1.0	3.2	5.4	25.0	6.2	1.0	43.0	2.0	4.0	3.0	100

2. 渡 島 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第1表の通りである。これによると昭和26年以降31.1%、昭和21~25年19.6%、昭和16~20年13.8%、昭和11~15年9.1%、昭和11年以前26.4%となっているから、使用年数20年以上のものが26.4%を占め、それ以外の戦前のものが22.8%、戦後のものが50.7%を占め、その中昭和26年以降の比較的性能の良いものが31.1%の過半を占めている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第2表の通りである。これによると18番9.4%、19番64.5%、20番21.7%、21番4.4%となっているから、20~21番が26.1%を占め、一番多いのは19番の64.5%である。

(3) 帯鋸製材機の大さ

帯鋸製材機の鋸車の直径の大きさは第3表の通りである。これによると50吋以上が7.3%、48吋が17.4%、44~46吋が14.6%、41~42吋が46.8%、40吋以下が13.9%となっているから41~42吋が最も多く次が48吋である。

渡 島 支 庁

第1表 帯鋸製材機の施設年度

種 類 \ 年 代	昭26以降	昭21~25	昭16~20	昭11~15	昭10以前	計
自動送材車付帯鋸盤	12	11	7	5	11	46
手押 // //	2	—	—	—	—	2
自動ローラー送 //	—	1	—	—	—	1
テーブル //	13	5	5	3	12	38
計	27	17	12	8	23	87
割 合 (%)	31.1	19.6	13.8	9.1	26.4	100

第2表 帯鋸製材機の使用鋸厚

種 類	鋸 厚	18	19	20	21	22	23	計
自動送材車付帯鋸盤		9	53	12	2	—	—	76
手押	〃	—	1	2	2	—	—	5
自動ローラー送	〃	—	2	—	—	—	—	2
テーブル	〃	4	33	16	2	—	—	55
計		13	89	30	6	—	—	138
割 合 (%)		9.4	64.5	21.7	4.4	—	—	100

第3表 帯鋸製材機の大きさ

種 類	鋸車直径	60~62	54~55	52	50	48	45~46	44	41~42	40	36~38	30~34	計
自動送材車付帯鋸盤		4	2	2	—	18	1	8	19	—	—	—	54
手押	〃	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1	3
自動ローラー送	〃	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	2
テーブル	〃	—	—	—	—	1	—	6	29	1	12	1	50
計		4	2	2	—	19	2	14	51	1	12	2	109
割 合 (%)		3.7	1.8	1.8	—	17.4	1.8	12.8	46.8	1.0	11.1	1.8	100

3. 空知支庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第1表の通りである。これによると昭和26年以降15.8%、昭和21~25年39.9%、昭和16~20年19.5%、昭和11~15年9.0%、昭和10年以前15.8%となっているから使用年数20年以上のもの15.8%で少く、それ以外の戦前のもの28.5%戦後のものが55.8%で多く、その中昭和26年以降の比較的性能の良いものが15.8%となっている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第2表の通りである。これによると18番13.4%、19番50.6%、20番22.6%、21番9.0%、22番2.2%、23番2.2%となっているから、20~23番で36%を占め、薄鋸の使用率が多く、然し一番多いのは19番の50.6%である。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の大きさの分析は、第3表の通りである。これによると50吋以上15.8%、48吋~28.1%、44~46吋14%、41~42吋35.1%、40吋以下7%となっているから一番多いのは41~42吋で、次が48吋となっている。

空知支庁

第1表 帯鋸製材機の施設年度

種 類	年 代	昭26以降	昭21~25	昭16~20	昭11~15	昭10以前	計
自動送材車付帯鋸盤		13	38	18	9	17	95
手押	〃	1	1	—	—	—	2
自動ローラー送	〃	—	—	1	—	—	1
テーブル	〃	7	14	7	3	4	35
計		21	53	26	12	21	133
割 合 (%)		15.8	39.9	19.5	9.0	15.8	100

第2表 帯鋸製材機の使用鋸厚

種 類	鋸 厚	18	19	20	21	22	23	計
自動送材車付帯鋸盤		21	73	24	11	1	2	132
手押	〃 〃	1	4	1	1	1	1	9
自動ローラー送	〃	—	—	1	—	—	—	1
テーブル	〃	3	17	16	5	2	1	44
計		25	94	42	17	4	4	166
割 合 (%)		13.4	50.6	22.6	9.0	2.2	2.2	100

第3表 帯鋸製材機の大きさ

種 類	鋸車直径	60~62	54~55	52	50	48	45~46	44	41~42	40	36~38	30~34	計
自動送材車付帯鋸盤		8	8	3	8	43	7	12	14	2	1	—	106
手押	〃 〃	—	—	—	—	1	—	1	3	1	—	—	6
自動ローラー送	〃	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	2
テーブル	〃	—	—	—	—	3	1	3	42	—	7	1	57
計		8	8	3	8	48	8	16	60	3	8	1	171
割 合 (%)		4.7	4.7	1.7	4.7	28.1	4.7	9.3	35.1	1.7	4.7	0.6	100

4. 宗 谷 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第1表の通りである。これによると昭和26年以降38.9%、昭和21~25年22.2%、昭和16~20年11.1%、昭和11~15年16.7%、昭和10年以前11.1%となっているから、使用年数20年以上のものは少く、それ以外の戦前のものも27.8%で少く、戦後のものが61.1%で多く、特に昭和26年以降の性能の良いものが多くなっている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚は第2表の通りである。これによると18番2%、19番42.9%、20番30.6%、21番14.3%、22番4.1%、23番6.1%となっているから、20~23番が55.1%を占め薄鋸の使用率が著しく多い。然し一番多いのは19番である。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の大きさは第3表の通りである。これによると50吋以上17.4%、48吋25.6%、44~46吋5.1%、41~42吋、41.1%、40吋以下11.3%となっているから一番多いのは41~42吋で、次が48吋である。

宗 谷 支 庁

第1表 帯鋸製材機の施設年度

種 類	年 代	昭26以降	昭21~25	昭16~20	昭11~15	昭10以前	計
自動送材車付帯鋸盤		7	5	2	3	3	20
手押	〃 〃	2	—	—	—	—	2
自動ローラー送	〃	—	—	—	1	—	1
テーブル	〃	5	3	2	2	1	13
計		14	8	4	6	4	36
割 合 (%)		38.9	22.2	11.1	16.7	11.1	100

第2表 帯鋸製材機の使用鋸厚

種 類	鋸 厚	18	19	20	21	22	23	計
自動送材車付帯鋸盤		1	17	7	1	1	—	27
手押	〃 〃	—	—	—	—	—	2	2
自動ローラー送	〃	—	—	—	1	—	—	3
テーブル	〃	—	4	8	5	1	1	19
計		1	21	15	7	2	3	49
割 合 (%)		2.0	42.9	30.6	14.3	4.1	6.1	100

第3表 帯鋸製材機の大きさ

種 類	鋸車直径											計
	60~62	54~55	52	50	48	45~46	44	41~42	40	36~38	30~34	
自動送材車付帯鋸盤	2	2	1	2	8	—	2	4	—	—	—	21
手押	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	2
自動ローラー送	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
テーブル	—	—	—	—	—	—	—	11	—	3	1	15
計	2	2	1	2	10	—	2	16	—	3	1	39
割 合 (%)	5.1	5.1	2.1	5.1	25.6	—	5.1	41.1	—	8.7	2.6	100

5. 網 走 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第1表の通りである。これによると昭和26年以降22.1%、昭和21~25年37.2%、昭和16~20年19.3%、昭和11~15年9.1%、昭和10年以前12.3%となっているから20年以上使用のものが少く、またそれ以外の戦前のものも28.4%で少く、戦後のものが59.2%で過半を占め、その中昭和26年以降の性能の良いものが22.1%を占めている

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第2表の通りであ

る。これによると18番4.2%、19番45.4%、20番31.3%、21番12.9%、22番2.5%、23番3.4%、24番0.3%となっているから、21~24番で50.3%の過半を占めて薄鋸の使用率が多く、特に23~24番も使用されている。然し一番多いのは19番で次が20番となっている。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の鋸車の大きさの分析は第3表の通りである。これによると50吋以上13%、48吋25%、44~46吋13%、41~42吋39%、40吋以下10%となっているが、一番多いのは41~42吋次が48吋である。

網 走 支 庁

第1表 帯鋸製材機の施設年度

種 類	年 代	昭26以降	昭21~25	昭16~20	昭11~15	昭10以前	計
自動送材車付帯鋸盤		17	53	21	7	15	113
手押	〃 〃	3	2	3	—	—	8
自動ローラー送	〃	1	—	—	—	—	2
テーブル	〃	27	26	18	13	11	95
計		48	81	42	20	27	218
割 合 (%)		22.1	37.2	19.3	9.1	12.3	100

第2表 帯鋸製材機の使用鋸厚

種 類	鋸 厚	18	19	20	21	22	23	24	計
自動送材車付帯鋸盤		13	111	64	17	4	1	1	211
手押	〃	—	3	1	1	—	—	—	5
自動ローラー送	〃	—	2	1	—	—	—	—	1
テーブル	〃	3	48	47	29	5	11	—	143
計		16	164	113	47	9	12	1	362
割 合 (%)		4.2	45.4	31.3	12.9	2.5	3.4	0.3	100

第3表 帯鋸製材機の大きさ

種 類	鋸車直径	60~62	54~55	52	50	48	45~46	44	41~42	40	36~38	30~34	計
自動送材車付帯鋸盤		7	10	7	20	58	12	14	27	—	—	—	155
手押	〃	—	—	—	—	—	—	2	1	—	2	2	7
自動ローラー送	〃	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	2
テーブル	〃	—	—	—	—	4	6	8	89	5	21	6	137
計		7	10	7	20	62	19	24	118	5	23	8	301
割 合 (%)		2.0	3.0	2.0	6.0	25.0	6.0	7.0	39.0	1.0	7.0	2.0	100

6. 十 勝 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度の分析は第1表の通りである。これによると昭和26年以降29.1%、昭和21~25年29.1%、昭和16~20年14.2%、昭和11~15年11.8%、昭和10年以前15.8%となっているから、20年以上使用のものは少く、それ以外の戦前のものも26%で比較的少く、戦後のものが多いが特に昭和26年以降の性能の良いものが多い。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第2表の通りである。これによると18番9.8%、19番45.1%、20番25.5%、21番12.4%、22番5.2%、23番2%となっているから20~23番が45.1%で薄鋸の使用率が多いが、然し一番多いのは19番である。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の鋸厚の大きさの分析は第3表の通りである。これによると50吋以上22.2%、48吋23.7%、44~46吋10.4%、41~42吋33.4%、40吋以下10.3%となっているから、50吋以上が比較的多いが一番多いのは41~42吋で次が48吋となっている。

十 勝 支 庁

第1表 帯鋸製材機の施設年度

種 類	年 代	昭26以降	昭21~25	昭16~20	昭11~15	昭10以前	計
自動送材車付帯鋸盤		18	19	8	5	11	61
手押	〃	5	1	2	1	—	9
自動ローラー送	〃	—	—	—	—	—	—
テーブル	〃	12	15	7	8	8	50
計		35	35	17	14	19	120
割 合 (%)		29.1	29.1	14.2	11.8	15.8	100

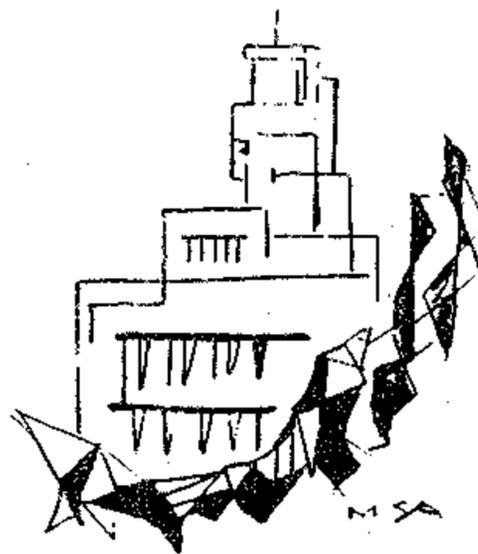
第2表 帯鋸製材機の使用鋸厚

種類 \ 鋸厚	18	19	20	21	22	23	計
自動送材車付帯鋸盤	12	47	17	6	5	—	87
手押 // //	1	1	—	—	—	—	2
自動ローラー送 //	—	—	—	—	—	—	—
テーブル //	2	21	22	13	3	3	64
計	15	69	39	19	8	3	153
割合 (%)	9.8	45.1	25.5	12.4	5.2	2.0	100

第3表 帯鋸製材機の大きさ

種類 \ 鋸車直径	60~62	54~55	52	50	48	46~45	44	41~42	40	36~38	30~34	計
自動送材車付帯鋸盤	6	6	3	11	23	2	5	9	2	1	—	68
手押 // //	—	1	—	—	7	—	—	1	—	—	—	9
自動ローラー送 //	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
テーブル //	—	—	—	3	2	2	5	35	1	4	6	58
計	6	7	3	14	32	4	10	45	3	5	6	135
割合 (%)	4.4	5.2	2.2	10.4	23.7	3.0	7.4	33.4	2.2	3.7	4.4	100

—指導所試験部—



北海道の支庁別製材工場の実態について(2)

(石狩、渡島、空知、宗谷、網走、十勝各支庁の帯鋸製材機の分析)

片岡哲蔵
小林正平

前報で上川支庁管内の分については、製材工場の各種の項目について分析を試みたが、他支庁の分については、調査資料の不備等から主として、帯鋸製材機の施設年度使用鋸厚、又鋸車の大きさ等について分析を試みたものである。

調査工場数

支庁別	石狩	渡島	空知	宗谷	網走	十勝
工場数	74	126	133	24	195	95

各支庁別の分析事項

1. 石狩支庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第1表の通りである。これによると、昭和26年以降17%、昭和21~25年23%、昭和16~20年24%、昭和11~15年14%、昭和10年以前22%となっているから、使用年数20年以上のものが22%を占め、それ以外の戦前のもの38%、戦後のもの40%でその中昭和26年以降の新しいものが17%となっている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第2表の通りである。これによると18番10.7%、19番40.6%、20番32.7%、21番11.3%、22番2.8%、23番1.9%となっているから20~23番が48.7%を占めて薄鋸の使用率が多い。然し一番多いのは19番の40.6%である。

(3) 帯鋸製材機械の大きさ

帯鋸製材機械の大きさは第3表の通りである。これによると鋸車の直径50インチ以上が15.4%、48インチが25%、44~46インチ7.2%、41~42インチ43%、40インチ以下9%となっており、41~42インチが最も多く、次いで48インチが多くなっている。

この調査で各支庁とも施設年度のないものは調査数に算入されない。一台の製材機で二種類以上の鋸厚を記入されてあるものはそれを加算し、また鋸車直径の大きさの記入のないものは算入されていない。

石狩支庁 第1表 帯鋸製材機の施設年度

第 2 表 帯鋸製材機の使用鋸厚

第 3 表 帯鋸製材機の大きさ

4. 宗 谷 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第 1 表の通りである。これによると昭和 26 年以降 38.9%、昭和 21～25 年 22.2%、昭和 16～20 年 11.1%、昭和 11～15 年 16.7%、昭和 10 年以前 11.1% となっているから、使用年数 20 年以上のものは少なく、それ以外の戦前のものも 27.8% で少なく、戦後のものが 61.1% で多く、特に昭和 26 年以降の性能の良いものが多くなっている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚は第 2 表の通りである。これによると 18 番 2%、19 番 42.9%、20 番 30.6%、21 番 14.3%、22 番 4.1%、23 番 6.1% となっているから、20～23 番が 55.1% を占め、薄鋸の使用率が著しく多い。然し一番多いのは 19 番である。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の大きさは第 3 表の通りである。これによると 50 インチ以上 17.4%、48 インチ 25.6%、44～46 インチ 5.1%、41～42 インチ、41.1%、40 インチ以下 11.3% となっているから一番多いのは 41～42 インチで、次が 48 インチである。

宗谷支庁 第 1 表 帯鋸製材機の施設年度

第 2 表 帯鋸製材機の使用鋸厚

第 3 表 帯鋸製材機の大きさ

2. 渡 島 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度は第 1 表の通りである。これによると昭和 26 年以降 31.1%、昭和 21～25 年 19.6%、昭和 16～20 年 13.8%、昭和 11～15 年 9.1%、昭和 11 年以前 26.4%となっているから、使用年数 20 年以上のものが 26.4%を占め、それ以外の戦前のものが 22.8%、戦後のものが 50.7%を占め、その中昭和 26 年以降の比較的性能の良いものが 31.1%の過半を占めている。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第 2 表の通りである。これによると 18 番 9.4%、19 番 64.5%、20 番 21.7%、21 番 4.4%となっているから、20～21 番が 26.1%を占め、一番多いのは 19 番の 64.5%である。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の鋸車の直径の大きさは第 3 表の通りである。これによると 50 インチ以上が 7.3%。48 インチが 17.4%、44～46 インチが 14.6%、41～42 インチが 46.8%、40 インチ以下が 13.9%となっているから 41～42 インチが最も多く次が 48 インチである。

渡島支庁 第 1 表 帯鋸製材機の施設年度

第 2 表 帯鋸製材機の使用鋸厚

第 3 表 帯鋸製材機の大きさ

6. 十 勝 支 庁

(1) 帯鋸製材機の施設年度

帯鋸製材機の施設年度の分析は第 1 表の通りである。これによると昭和 26 年以降 29.1%、昭和 21～25 年 29.1%、昭和 16～20 年 14.2%、昭和 11～15 年 11.8%、昭和 10 年以前 15.8% となっているから、20 年以上使用のものは少なく、それ以外の戦前のものも 26% で比較的少なく、戦後のものが多いが特に昭和 26 年以降の性能の良いものが多い。

(2) 帯鋸製材機の使用鋸厚

帯鋸製材機の使用鋸厚の分析は第 2 表の通りである。これによると 18 番 9.8%、19 番 45.1%、20 番 25.5%、21 番 12.4%、22 番 5.2%、23 番 2% となっているから 20～23 番が 45.1% で薄鋸の使用率が多いが、然し一番多いのは 19 番である。

(3) 帯鋸製材機の大きさ

帯鋸製材機の大きさの分析は第 3 表の通りである。これによると 50 インチ以上 22.2%、48 インチ 23.7%、44～46 インチ 10.4%、41～42 インチ 33.4%、40 インチ以下 10.3% となっているから、50 インチ以上が比較的多いが一番多いのは 41～42 インチで、次が 48 インチとなっている。

十勝支庁 第 1 表 帯鋸製材機の施設年度

第 2 表 帯鋸製材機の使用鋸厚

第 3 表 帯鋸製材機の大きさ

指導所試験部